

図書案内

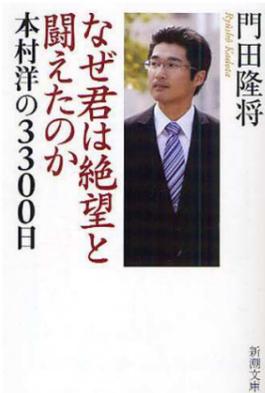
2017年 6月号

担当 3-1H 杉谷 3-2H 山崎

特集

ノンフィクション

多くの方は、本と言えばフィクション(架空の出来事や創作もの)を思い浮かべると思いますが。そこで今回は、虚構を用いず事実に基づいて作られたノンフィクション作品を紹介します。文系・理系に関係なく、誰もが引き込まれる本を選びました。本を通してリアルな世界に浸ってみませんか？ 本校図書館で貸出しています。



『なぜ君は絶望と闘えたのか 本村洋の3300日』 門田 隆将／著

皆さんは、光市母子殺害事件を知っていますか。1999年に山口県光市で起こった凶悪事件であり、被害者の夫が「犯罪被害者の権利確立」を訴えた事件です。18歳の少年に妻子を殺されてしまった青年・本村洋が犯人の死刑判決を勝ち取るために、少年法という厚い壁にぶつかりながらも奮闘する姿が綴られています。守られるべきは、被害者の権利か被告の人権か——。皆さんもこれを読んで考えてみてはいかがでしょうか。

これは、その「当然の結果」に辿り着くまでに時間がかかっただけなのだ。弥生と夕夏の遺影を抱いた本村は、絶対に泣いてはいけない、と自分に言い聞かせていた。

『トットちゃんとトットちゃんたち』

黒柳 徹子／著

「徹子の部屋」でおなじみの黒柳徹子さん。彼女がユニセフ親善大使として1984年～1996年に訪問した13の国々で出会った子どもたち。懸命に今を生きる姿が彼女自身の目を通して描かれています。少し前に出版された本ですが、現在も様々な問題が残る地域に対して、私たちにも出来ることがあるのでは、と考えさせられる1冊です。

「黒柳さん、これだけは、おぼえて帰ってください。大人は死ぬときに、苦しいとか、いたいとか、いろいろありますが、子どもは何もいいません。大人を信頼し、黙って、バナナの葉っぱの下で、死んでいくのです」

豆知識

●少年法

非行を犯した未成年が家庭裁判所で調査・審判に付する法律。20歳に満たない「少年(女性含)」は行為の結果に対する予測・判断が未熟であるため、彼らを保護する目的で制定された。しかし、昨今の少年による凶悪犯罪が増えてきたため、被害者への救済措置や罪状の厳罰化など少しずつ改正されている。

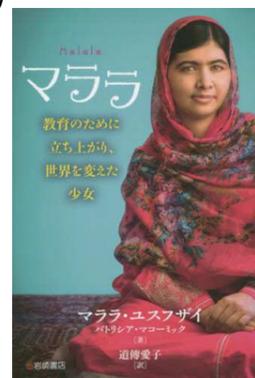
豆知識

●ノーベル賞設立の理由は、悪女にだまされたことによる反省？

ノーベル賞は、ノーベルが自分の死後の評価を気にして設立を遺言したとされているが、それだけではないらしい。ノーベルは43歳の時ウィーンで恋に落ちた。この恋の相手である20歳のゾフィーはとんでもない悪女で、15年間の交際の中で、浮気や恐喝を繰り返し、ノーベルがつき込んだお金は302億円以上にもなった。ゾフィーとの付き合いで多くの私財を失ったことをノーベルは反省し、自分の財産を人類の役に立てようと、ノーベル賞の設立を望んだといわれている。

『マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女』

マララ・ユスフザイ／著



世界で最も有名な少女、マララ・ユスフザイ。彼女が世界の教育に多大な影響を与え、史上最年少でノーベル平和賞を受賞したことは周知の事実です。何度も恐ろしい事件に巻き込まれても強い意志を持ち続け、諦めずに自分のみならず同級生や故郷の人々の思いを叫び続けてきたマララのすべてがこの本に詰まっています。今一度教育を受けられることの喜びをかみしめてみませんか。

テロリストは、わたしたちがくじけ、望みを捨てるだろうと思ったのです。しかし、なにも変わりませんでした。わたしの人生で変わったことがあるとすれば、これだけ一弱さ、おそれ、絶望が消えました。そして、強さ、力、勇気が生まれました。

森山先生－ノンフィクション作品考



今年も県高校総体を迎えた。最後のシーズンにかけける3年生。競技レベルがどうであれ勝敗にかけける姿は美しく、私たちの心を揺さぶる。スポーツノンフィクションは、1985年の山際淳司の「江夏の21球」が走りとされる。日本シリーズ第7戦、9回1点差の無死満塁。この絶体絶命の局面における投手の心理状態を中心に描かれた両軍の攻防は、勝敗の裏側に私たちが見過ごしがちなドラマがあることを教えてくれた。この「江夏の21球」が掲載されているのが「スローカーブを、もう1球」である。球史に残る延長18回サヨナラとなった星稜対箕島の一戦。タイトルにもなった体育会系とは無縁、甲子園出場など夢に思わなかった高崎高校の快進撃などを取り上げている。

陸上ものでは佐藤多佳子の「夏から夏へ」、スポーツ全般を取り上げた雑誌「Number」も有名である。また、イチロー、本田圭佑、羽生結弦ら個人にスポットライトをあて、その生き様、言葉からアスリートの内面を掘り下げたものや「遭難者を救助せよ!」のように当事者でなければ知りえない世界の奥深さを取り上げたものもある。競技者にとって一流選手の世界観を知ることは競技レベルを向上させるうえで必要なことであり、ライター立場から見える競技の世界を知ること、競技の新たな一面を知ることにもなるだろう。

近年、ケータイ小説やスポーツの大衆化の影響もあるせいか、スポーツものにせよ、事件ものにせよ秀逸なノンフィクションが少なくなっている印象がある。自分自身の感性が鈍くなっている面もあれば、正しい生き方、成功する法則が明確になるにつれ、泥臭い人間ドラマが減っている面もある。改めて、高校総体で見たさまざまな感動を思い出しつつ、心揺さぶるノンフィクションを探すのも悪くないと思う。